

15. 甲斐国都留郡小菅村文書目録 (41N-7)

目 次

解 題

15・1. 小菅村文書 / -1871年(明治4)p.79

15・1・1. 村政一般 1

解 題

歴史 本文書群の出所である小菅村は、山梨県北東部にあり、多摩川支流小菅川の流域にある。東京都に隣接し、大月市、上野原町の北に位置している。近世では、郡内領に属し、村高は、『旧高田領取調帳』では、60石余となっている。近代には、明治維新後、石和県、甲斐府、甲府県を経て、1871年(明治4)より山梨県となり、大小区制期には、1872年(明治5)に都留郡第十二区、1876年(明治9)に山梨県第二十九区となり、1888年(明治11)の都留郡の分画に際しては、北都留郡に属した。1889(明治22)年、単独で市制町村制を施行し、役場を川窪組に置き現在に至っている。

小菅村は、『山梨県市郡村誌』(1892年(明治25)刊)によると、東西2里12町・南北35町、1891(明治24)年の戸口(現住戸数・本籍人口)は196戸、987人、地租改正後(1875年(明治8)の地租は389円2銭1厘、反別は田8畝4歩・畑140町2反4畝9歩・切替畑40町1反2畝21歩・宅地6町3反6畝12歩・林106町8反7畝28歩・芝地230町4反5畝23歩・合計524町1反5畝7歩である(『山梨県地誌稿』(山梨県立

図書館所蔵)によって補訂)。

伝来と数量 本文書群は、1966年度に他の山梨県下町村役場文書とともに、一括して古書店より購入したものである。これまでの文書群名は「山梨県北都留郡諸村役場書類(1)」であったが、『史料総覧』の編集に際して、分割し一文書群とした。もっとも数量は1点で、書架延長は0.1m未満である。

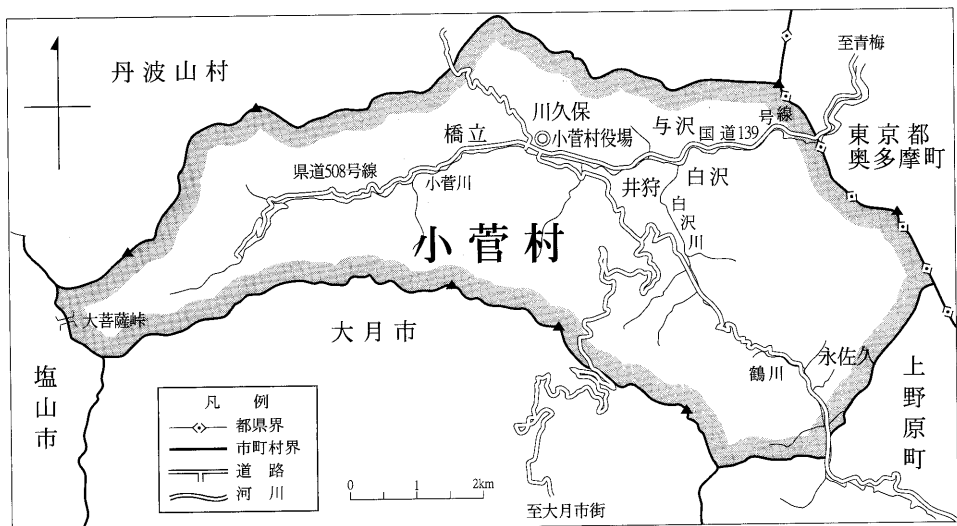
史料の概要 史料は、1746年(延享3)の「村差出」1点のみである。これは、罫紙に記載された近代初頭の写本である。第1次項目は、小菅村文書(15・1. 1点)のみで、第2次項目は、村政一般とした。

関係史料 同村役場によれば、役場庁舎内に関連史料の保存はされていない、とのことである。

参考文献

・守重保作編著『小菅村郷土小誌』小菅村、1983年。

図9 小菅村役場管内要図



15・1. 小菅村文書

15・1・1. 村政一般

1 甲斐国都留郡小菅村差出 延享三年寅四月。

作成：名主次郎左衛門(ほか組頭・百姓代5名)。延享3・4。(1746)。

1冊。27・5cm。罫紙：無題藍色10行罫。

内題：寛文九酉年秋元但馬守様御檢地。

内容：村明細帳写。 史料請求番号41N-7,157